

「敵基地攻撃能力」の保有

「選択肢排除しない」

講演で岸田首相表明

岸田文雄首相は22日、読売国際経済懇話会で講演し、「新時代リアリズム外交」の推進を表明しました。対中国との関係について「普遍的な価値を齎（もたら）しながら、言うべきことは言うのが当然だが、安定的な関係もしっかり維持していかなければならない」と述べました。

一方で、急速に変化する安全保障環境に対応するため「リアリズム外交」などと言うのであれば、国連憲章、国際法に基づき冷静な批判こそ必要であり、「敵基地攻撃能力」の検討など軍事対軍事の悪循環の道に進むことは許されません。

軍事対軍事の悪循環に

また、岸田首相は「核兵器のない世界」を「ライフワークとしている」としながらも、核兵器国が参加するNPT（核不拡散条約）再検討会議を動かすことこそ、「現実的な核軍縮、不拡散への歩みである」と信じている」と主張。一気に核兵器禁止条約にいくのではなく、包括的核実験禁止条約などの議論を呼び戻すことが現実的な対応として重要だと述べ、核兵器禁止条約への参加に背を向け続ける姿勢を示しました。